



EL SALVADOR

学校名：村上市立朝日みどり小学校

氏名：駒沢 玲子

〔担当教科：小学校全科〕

- 実践教科等：外国語活動、家庭科、道徳
- 時間数：6時間
- 対象生徒：第5学年
- 対象人数：25人

1 単元名

みんなちがって、みんないいね！！ ～日本とエルサルバドル～

2 単元の目標（ESD の能力・態度）

- ・ 世界の多様な文化・生活を知り、自分たちと同じところと違うところに気付き、外国への興味をもつ。（進んで参加する態度）
- ・ 世界の子どもたちの現状を知り、自分のできることを考えることができる。（他者と協力する態度）
- ・ 世界との貿易や世界の食料生産を知り、世界の実情を理解する。（批判的に考える力）
- ・ 「違い」を認め合いながら、豊かな人間関係をつくるために行動目標を自己決定できる。（多面的、総合的に考える力）

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・ エルサルバドルと日本の食文化や学校生活の違いに気付く。【多様性】
- ・ 貿易や食料生産を通して、日本と世界はつながっていることに気付く。【相互性】
- ・ 互いの「違い」を認め合い、自分と異なる意見や立場を大切にしながら自分ができることを考える。【連携性】

4 単元の指導について

(1)教材観

本単元では、エルサルバドルの生活や地理的環境、食料生産などを通して、世界の実情や日本と世界のつながり、及び日本との違いについて理解を深めながら、豊かな人間関係を構築する素地を養うことをねらっている。

本校は、自然に恵まれた静かな環境にあり、隣接校との交流においては、容易に他校の児童と交流をもてない傾向にある。また、少人数であることや刺激が少ないことなどから、多様な価値を認め合いながら豊かな人間関係を構築することが苦手である。エルサルバドルの様子を学ぶことを通して世界の国々の暮らしや文化の違いを見つめ、学ぶことで、多様な見方や考え方を育てるのにふさわしい教材である。

単元の前半は、おもちゃで遊んだり「ププサ」を作ったり、エルサルバドルと日本の違いを「楽しい」と感じるように授業を展開し、後半では、エルサルバドルが抱える課題について考えさせる。それぞれの国には、良い所も悪い所もあり、それを互いに協力して解決していくことが、世界中の人の「幸せ」につながることに気付かせていく。

(2)児童生徒観

外国語活動で、英語を話したり世界の様々な文化を知ったりすることにとっても意欲的である。外国の食文化や遊びの違いに興味をもち、家庭学習で世界の国旗や主食などを調べてくる児童も多い。

児童同士の間人間関係においては、幼少期から同じメンバーで男女仲も良く良好な関係を築いている。今後、進学し新しい人間関係になっても、主体的に互いの違いを認め合い豊かな人間関係をつくれる児童になって欲しいと願い、本単元を構成した。

(3)指導観

私はこれまで、各教科、道徳教育を中心に、「子どもたちの自己肯定感を高め、将来の夢をもつ子を育成すること」を目指してきた。今年度、教師海外研修に参加し、日本と世界は、相互に依存関係にあることを実感できた。世界中の人々が「幸せ」になるためには、まずは、世界の实情について、

一人一人が「知る」ことである。「知る」ことが「考える」ことになり、将来、国際貢献する子どもの育成につながっていく。

私は、国際理解教育がねらいとする、「広い視野とともに異文化に対する理解や、異なる文化をもつ人々と共に協調して生きていく態度を育成すること」は、自分とは異なる人を認め、豊かな人間関係をつくることにつながると考えた。そこで、道徳教育を中心に、国際理解と親善の心を育てることを目標にした単元を構成し、日本と世界の「違い」と「つながり」を単元の柱として、本実践を行う。

5 評価基準

観点	世界の多様な文化・生活について興味・関心をもって学習に取り組む。 【関心・意欲・態度】	世界の現状を知り、自分にできることを考える。 【思考・判断・表現】	ププサ作りやフォトランゲージを通して、エルサルバドルと日本の相違点を見つける。 【技能】	世界との貿易や世界の食糧生産について理解する。 【知識・理解】
評価規準	世界の多様な文化・生活を知り、自分たちと同じところと違うところに気づき、外国への興味をもって学習に参加している。	世界の現状を知り、自分にできることを考え、発表したりワークシートに書いたりしている。	エルサルバドルの国民食を友達と協力して作っている。フォトランゲージでは、エルサルバドルと日本を比較して、見つけた相違点を書いている。	世界との貿易や世界の食料生産について理解している。
評価方法	学習の様子 発言 ワークシートの記述	学習の様子 発言	学習の様子 ワークシートの記述	学習の様子 ワークシートの記述

6 単元の構成

※太枠の授業内容詳細を「7 授業事例の紹介」に記載

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	エルサルバドルを知ろう！①	エルサルバドルの小学生に伝えたい日本のよさを考える。	- エルサルバドルの位置を世界地図で確認する。 - 日本や自分の住んでいる地域の良いところを考えてワークシートに書く。
2	エルサルバドルを知ろう！！②	エルサルバドルの写真や遊びを通して、エルサルバドルと日本とのつながりを知る。	- エルサルバドルについての写真（食事・学校や街の様子）を見たり聞いたりして、日本との違いを知る。 - エルサルバドルの「けん玉」で遊ぶ。
3	エルサルバドルの国民食「ププサ」を作ろう！	エルサルバドルの国民食「ププサ」作りを通して外国の食文化を知り、世界への興味をもつ。	「エルサルバドルクイズ」・「ププサ」の作り方を写真や映像で見る。 「ププサ」作りをする。 「ププサ」を試食する。 - 作り方・味・材料・食事の仕方などを意識して感想を書く。
4	おやつで元気！	子供たちにとって大好きなおやつを通して、食文化の違いや多様性について学ぶ。 おやつとお菓子の違いを知り、おやつを嗜好と健康の視点から考えるきっかけをつくる。	- おやつの特徴をつかむ。 ① 各自好きなおやつを付箋紙に書く。 ② 大きく4つ（素材そのまま/加工品・甘い/塩辛い）の特徴をあげた図に貼る。 ③ おやつの意味、おやつとお菓子の違いを説明する。 - 各国のおやつを探す。 ① グループに用紙を1枚配り写真の中から各家庭のおやつを探し書き出す。

			②カード「おやつリスト」を国ごとに配布し、写真の中から自分たちが書いたおやつを確認する。 ・ おやつを比べる。
5	みんな違ってみんな笑顔！！ ～日本とエルサルバドル～	世界とつながっていることに気づき、外国の人々や文化を大切にする心情を育てる。 世界と日本との違いを知り、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めていこうとする意欲や態度を育てる。	・ 日本や自分の地域の良いところを発表する。 ・ エルサルバドルクイズを考える。 ・ グループごとに、フォトランゲージをして日本との相違点や疑問点を出し合い、グループごとに発表する。 ・ エルサルバドルが抱えている問題について知る。 ・ これからの自分について考える。
6	みんな違ってみんな幸せ！！ ～世界で活躍する人々～	海外で活躍する日本人の姿や国際社会での日本の役割を知り、郷土を愛する心情を育てる。	・ JICAの役割を知る。 ・ JICAボランティアや専門家の活動写真やインタビューを見る。 ・ 将来の自分に手紙を書く。

7 授業事例の紹介

小単元名【みんな違ってみんな笑顔～日本とエルサルバドル～】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月21日(金)第3限

(イ)実施会場 5年生教室

(ウ)本時の目標

- ・ 世界の国や人とつながっていることに気づき、外国の人々や文化を大切にする心情を育てる。
- ・ 世界と日本との違いを知り、日本人としての自覚をもって世界の人々との親善に努めていこうとする意欲や態度を育てる。

(エ)指導のポイント

① めあてを絞る

エルサルバドルの小学校や街の様子についての写真を提示して、クイズ形式でテンポ良く進めていく。関心を継続させるために、クイズの答えに解説を入れながら、エルサルバドルが抱えている問題に目を向かせる。

② 話し合い活動

4人～5人一組でフォトランゲージを行う。すぐに答えを出さずに、個人で考えさせたり近くの人と話し合わせたりする時間を設定し、その後、グループごとに発表させる。

③ 課題提示の工夫

本単元1時間目に書かせておいた、「エルサルバドルの人に伝えて欲しい日本の良さ」について出させる。次に、日本とエルサルバドルの違いが分かる写真を提示する。「写真から発見したこと」「日本にあるもの・ないもの」「日本との違い」を問う。また、全体の流れを、「楽しむ」→「興味をもつ」→「知る」→「考える」の流れにして、前後につながりをもたせながら、スムーズな学習の流れを組み立てる。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	○学習活動・予想される児童の反応	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 10分	1. 本時の課題を出す。	○日本や村上の良い所を確認する。	一斉	・ 国旗クイズをして注目させる。 ・ 事前に書いた日本の良さを確認させる。 ・ 日本の良い所の写真をスライドショーで写す。	
	T 日本や村上・朝日の良さは何ですか。				
		・ お米が美味しい。 ・ 自然がたくさんある。 ・ 四季がある。 ・ お祭りがある。			

展開 20分		○ エルサルバドルと日本を比べてそれぞれの国の違いを知る。	一斉	○×クイズ形式で行う。○は「立つ」、×は「座る」。立場を明確にすることで、全員をクイズに参加させる。 - エルサルバドルの食文化や街の様子の写真のスライドショーで紹介する。	エルサルバドルの多様な文化・生活を知り、自分と同じところに気付き、意欲的に学習に取り組んでいる。 (学習の様子・発言)
	T エルサルバドルクイズをします。エルサルバドルの小学校の様子や街の様子を見ながらエルサルバドルのことを勉強します。 今日の問題、「みんな違ってみんな○○」○○の中には何が入るでしょうか。授業の最後に聞きますね。				
	2. フォトランゲージを行う。	- 日本と同じで自然が豊かなね。 - エルサルバドルの小学校はにぎやかだね。 - 休み時間にはお菓子を食べているね。 - ノートは全教科で1冊なのかな？ - あれ？街の雰囲気が変わったね。 - ライフルを持っている人がいるね。	グループ	周りが「鉄線」で囲まれている家の様子が分かる写真を各グループに配る。	
	T 写真を見て気付いたことや日本と違うところを見つけましょう。				
	3. 日本との相違点、疑問点を見つけさせる。	- 青空がきれいだね。 - 電信柱があるね。 - 商店がある。 - 日本製のトヨタ車がある。 - 道路に白線がないね。 - とげとげの針金が家のまわりにあるね。猿よけかな。 - 人と車が一緒に歩いている。危険だね。歩道もない。	グループ	気付いたことを写真の貼った画用紙に書きこませる。	
まとめ 15分	T グループで見つけたことを発表しましょう。そして、疑問に思ったことをワークシートに書きましょう。			- グループのリーダーに発表させる。 - 黒板に掲示する。 - グループの発表終了ごとに、自分と同じか違うか挙手させる。	エルサルバドルの街の様子から相違点を見つけ、画用紙に書いている。 (発言・画用紙への記述)
	4. エルサルバドルの課題を整理し、行動目標を自己決定させる。	家の周りかとげで囲まれているのはどうしてだろう。	個人		
	T エルサルバドルと日本では、食文化や住居、学校・街の様子など日本と違うことがたくさんありました。また、教育の環境が整っておらず、体育のない学校もあることを知りました。先生はそのことを知って「どうにかしたい」と思い、エルサルバドルの子どもたちと楽しく体を動かせる「ラジオ体操」を教えてきました。自分のよさを生かして、みんなにもできることを考えよう。	○ エルサルバドルが抱えている課題を知り、自分にもできないことがないか考える。			



	・ 私は、絵を描くのが得意だから一緒に絵を描く。 ・ 身近なことから、できることがあるね。 ・ ラジオ体操をしている子どもたちはみんな楽しそう。笑顔が素敵だね。			
	「みんな違ってみんな○○！！」には、エルサルバドルと日本で共通していえることが入るよ。どんな言葉が入るかな。			エルサルバドルの現状を知り、自分にできることを考え、ワークシートに書いている。 (学習の様子・ワークシートへの記述)
	・ 「みんな違ってみんな笑顔！！」だね。		・ エルサルバドルと日本の違いを認め合いながら、それぞれの国の良いところに目を向けさせる。	

(2) 授業の振り返り

① 良かった点

- ・ 写真や映像を活用することで、行ったことのないエルサルバドルを身近に感じ、興味をもって学習に取り組むことができた。
- ・ フォトランゲージを通して、友達との考えの違いや共通点を見つけることができ、多様な見方や考え方に気付くことができた。
- ・ エルサルバドルと日本の文化の違いを知ることで、他の国々にも興味をもつ子が増えた。中には、世界中の人を「幸せ」にしたいと、夢をもつ子もいた。

② 改善点

- ・ フォトランゲージでは、家の周りを「鉄線」で囲まれた写真を提示した。「鉄線」から、エルサルバドルの治安の問題に目を向けるだろうと考えていた。しかし、子どもたちは、「道路に白線、歩道がない。」「車と人が一緒に歩いている。」など、自分たちの身近なことからの違いに目を向けていた。とても良い気付きだったのに、想定外の意見にとまどってしまった。子どもたちが考えたことをうまく生かすことができなかった。フォトランゲージでは、多様な考えを出すことがねらいであるので、「なるほど。」「おもしろいね。」「先生も気付かなかったよ。」など、子どもたちの気付きを受け止めながら授業を進められるようにしていく。
- ・ 今回は、道徳教育を中心に単元を構成した。次年度からは、各教科の導入などに位置づけて、どの学年でも誰でも国際理解教育ができるように指導計画を丁寧に作っていきたい。

(3) 使用教材

① 画像と動画

〔画像〕エルサルバドルクイズ「エルサルバドルのうそ・ほんと」スライド（3問）



〔動画〕現地の小学校で撮影したビデオ



② 授業で使用する動画ワークシートとフォトランゲージで使用した写真

5年生 国語「国際理解と経済」

みんながってみんな〇〇！名前（ ）

気付いたこと、感じたこと何でも書いてね。
先生は、みんなの意見・感じるべき大事にしたいです！！
オール オーケー！！

（質問1）
グループの中の話し合いやグループの発表を聞いて、気付いたことや疑問に思ったことを書きましよう。

・道路にゴミ
・車と人がいっしょに行動

（質問2）
授業の感想（日本のいいところやエルサルバドルのいいところ・これからみんなで助け合っていかなければいけないこと等）や未来に向かって自分たちができることなど、感じたことをたくさん書きましよう。

・道路のせいを、しっかりして、犯罪をする人が減るために、エルサルバドルに、働く所を、作る。そのために、みんなと協力する。ほかに協力する。
みんな笑顔

授業で使用するワークシート



フォトランゲージで使用した写真

(4) 参考資料等

- ・『わたしたちの地球と未来 エルサルバドル共和国』愛知県国際交流協会（2009 年）
- ・『写真で学ぼう！地球の食卓学習プラン10』開発教育協会（2012 年）

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

エルサルバドルの授業を通して、「日本からエルサルバドルにお金を寄付したい。」「治安改善のために、警察を雇う。」「エルサルバドルのおもちゃはおもしろい。」「ププサをもっと食べたい。」など、世界の様々な現状や遊び、食文化に興味をもつ子が増えた。また、自分とは違った考えを認め合う姿も多く見られるようになった。これまでの授業では、一部の児童の発言に流されることが多かったが、国際理解教育を進める中で、一人一人が自分の考えを堂々と発表できるようになり、各教科での発言回数も増えた。「人の考えを知るために、やっぱりコミュニケーションって大事だね。」「自分もみんなと違うよ。」「個性が光っていますね。」とつぶやく子など、互いに認め合う雰囲気になった。1 学期にQ U調査をした際、「非承認群」だったA子も 2 学期の終わりの調査では、「承認得点」を上げ、「学級生活満足群」となった。学校生活でもいきいきと学習したり遊んだりする様子が見られた。

道徳授業での夢作文では、将来の夢がパイロットになることだったB男は、「食料不足の世界中の人に食料を届けるパイロットになりたい。」と、より具体的な夢を膨らませていた。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

8に記載した児童の感想や態度から、異文化への興味関心が高まっていたり、互いの「違い」を認め合う姿が伺えたりしたので、単元目標の「外国への興味をもつ」「『違い』を認め合いながら豊かな人間関係をつくる」は達成できたといえる。しかし、「日本のつながり」や「自分にできること」については、まだまだ、身近なことと感じている児童は少なかった。今後、社会科と関連づけながら、「食料問題」「貿易」について学習を深めていく。また、当初、授業の時間数確保の問題があったが、この問題に対して、他教科との関連を図りながら年間指導計画に位置づけることで課題を解決した。

10 教師海外研修に参加して

日本人が世界で活躍していることを知り、日本人として誇りに思った。物資の支援だけでなく、現地に入り信頼関係を築きながら、人材育成をしている姿に感動した。コミュニケーションを大切にし、最後まであきらめない強い信念をもっている方々の姿がとても素敵だった。

帰国後、授業実践後など、常に、「自分には何ができるか。私にも役に立てることはないか。」など、考える日々が続いている。この経験とたくさんの出会いを多くの人に伝え、世界の国々に興味をもつ

人が一人でも増えるように、授業実践を積み重ねていく。